

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】 第 3 部門第 3 区分
 【発行日】 平成 19 年 11 月 29 日 (2007.11.29)

【公開番号】 特開 2006-152061(P2006-152061A)
 【公開日】 平成 18 年 6 月 15 日 (2006.6.15)
 【年通号数】 公開・登録公報 2006-023
 【出願番号】 特願 2004-342088(P2004-342088)
 【国際特許分類】

C 0 9 D 157/08 (2006.01)

B 3 2 B 27/30 (2006.01)

C 0 8 J 7/04 (2006.01)

C 0 8 L 27/12 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D 157/08

B 3 2 B 27/30 D

C 0 8 J 7/04 C E W B

C 0 8 L 27:12

【手続補正書】
 【提出日】 平成 19 年 10 月 15 日 (2007.10.15)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】 明細書
 【補正対象項目名】 0 0 1 5
 【補正方法】 変更
 【補正の内容】
 【0 0 1 5】

前記含フッ素共重合体は、水酸基、カルボキシ基、アミド基、およびグリシジル基からなる第 1 の官能基群に含まれる官能基を持つことが必要である。

含フッ素共重合体一モル当たりの、第 1 の官能基群に含まれる官能基の平均モル数は 3 以上 5.4 未満の範囲内である。より好ましい範囲は 3.4 以上 5.1 未満である。
 上記範囲の下限值以上とすることにより、塗膜と含フッ素樹脂基体との密着性が向上する。特にフッ素樹脂基体に後述の表面処理が施された場合に、良好な密着性向上効果が得られる。前記第 1 の官能基群に含まれる官能基の平均モル数が上記範囲の上限値未満であると、塗膜の粘着性が低く、大気中の粉塵を吸着し難く、塗膜の表面が汚れ難い。